

『21世紀のビスマルク -正義編-』

皆さん……、「正義」とは、一体何でしょうか？ 悪を倒すこと？ それとも逆に平和主義でしょうか？ あるいはそもそも正義なんか信じてないって人もいるかもしれません。

私も、正義というものを信じない人間の一人でした。

いえ、子どもの頃は、信じてましたよ。まあせいぜい仮面ライダーレベルの話ですけどね。悪を倒して弱い人を守る。それが単純にかっこよかったんです。

そう、正義はカッコいいものだと、信じて疑わなかった。

しかし……、現実はその都合良くはいきません。歴史を見てください、残酷な戦い、道徳の崩壊、不条理な虐殺——。そして時に、残酷な行為は「正義」という看板の下で行われてきた。原爆の惨劇を、あの戦争を思い出してください。……正義など存在しない。あるのは力だけだ。力ある者しか生き残れない。むしろ正義なんて信じている自分がカッコ悪い。いつの間にかそこまで思うようになってしまった。

そんな私の背筋を凍らせた問題があります。日本がまた戦争に国土を焼くんじゃないかと。そう、今アジア中を巻き込んでいる中国の台頭です。特に日本に対しては、この10年ほど、尖閣諸島の領有権を主張して軍事的挑発を年々エスカレートさせています。つい先日も、中国の軍艦が初めて接続水域に入りましたね。

そんな簡単に戦争になるわけがない、そう言えればいい。しかし、米軍が設置したランド研究所はそうは見えていません。近年発表した二つの報告書において、東シナ海は小さな衝突をきっかけに紛争に突入する可能性はある、そしてすぐに日本が敗北するだろうと結論づけました。それだけ衝突が現実味を帯びてきている。

これは放置していいリスクでしょうか。戦争はいつでも、我々の部屋の扉をノックなしに突き破ってくる。部屋の中を焼き尽くす。そして我々や我々の大切な人の命を奪って帰って行く。70年間それがなかったからと言って、この先もないとは限りません。

力ある者しか生き残れない。歴史の、そして国際政治の現実です。ところがそれに従うと、日本は中国に負けるかもしれない。そこに恐怖があるから、私はこれを淡々と受け止められません。

そう、恐怖です。カッコ悪い話ですよ。「正義なんか信じなかった」とかカッコつけていて、皆さんの前でこうして話しているのは結局、最悪の事態が、戦争が怖いからです。自分や自分の大事な人を失うのが怖いからです。

でも……、その恐怖から、願いは生まれるのかもしれませんが。この人たちを守りたいと望み、彼らを恐怖や絶望から救いたいと強く求め、世界をこうしたいとただひたすらに願う。その切実な願いが確実に世界を前に進めてきた。人類の歴史はそんな、誰かが誰かを想う願いで紡がれてきたんです。彼らはカッコ悪かったかもしれない。力も足りなかったかもしれない。それでも、必死に恐怖と戦うその人たちの姿を、我々は「正義」と名付けたんじゃないでしょうか。

—だからきっと、今の社会に恐怖心を抱き、人々を守る方法を必死で考えた私や今日の弁士たちは、きっと間違っていない。きっと一歩ずつ「正義」に近づいている。

私は今日、この最後に、ここまでの皆さんの願い全てを、その命を守るための策を打ち

ます。人々が不条理に血を流すことのないようにするための策です。

そのためにまず、現実を把握せねばなりません。中国は現在、アジア全体への進出を強めており、その情勢は日本と無関係ではありません。例えば、もし南シナ海を中国に握られれば、石油タンカーの通行に支障が出るなど日本にとっても問題があります。では、アジアの現状を見ていきましょう。

日本と中国は尖閣諸島問題で対立し、中国の挑発行為が続いています。もし中国が尖閣諸島を占領したら、日本列島は丸腰同然、日本国民の命が脅かされます。

加えて、中国は南シナ海の南沙諸島を巡り東南アジア諸国とも対立しています。西沙諸島に軍事目的の人工島を建設中で、現地を守ってきたアメリカとの間で緊張が高まっている。当事者である東南アジア諸国は軍事的に弱すぎて、何もできないのが現状です。

こうした状況になっているのは何故か。アジア全体を、軍事的な視点と経済的な視点から原因を探りましょう。

まず軍事的には、長年この地域を守ってきたアメリカの力が弱まったこと。一昔前なら、米軍基地の目と鼻の先で勝手に人工島を作ろうなんて自殺行為を働く奴はまずいなかった。冷戦直後ならアメリカの覇権は確かで、財政も豊かだったからです。それが20年後の今はアメリカ財政は疲弊、世界各地での軍の展開が重荷になってきた。アメリカ国防総省は今後10年で約100兆円以上の予算削減を行うと発表しています。アメリカが「世界の警察」の立場を放棄したことで、どの国も軍事的に中国を抑えられなくなっているのです。

一方経済的には、東南アジア諸国が中国経済に依存している、ということ。中国によるASEANへの投資は急速に拡大しており、ここ数年間で1億ドルから59億ドルと60倍になっています。東南アジアの多くは経済的に自立できていません。もし中国がASEANとの取引を止めたら、ASEAN諸国は生産活動自体ができなくなる。そのため、中国に対し過剰な配慮をしているのです。自分たちの海で好き放題されているのに、アメリカ海軍による牽制作戦を支持しているのはたった2カ国しかない。当事者であるASEAN諸国が支持しない以上、アメリカも大したことはできません。進出する中国と積極的に介入できないアメリカ。そうしてアメリカの抑止力が更に下がった結果、ますます中国は膨張、アジアが不安定になっているのです。

一つ目：中国を軍事的に抑える国の不在、二つ目：ASEANの中国への経済依存。これらが今、アジアで勢力のバランスを崩し、緊張を高めています。

現状を打破するため、提案する政策は3点です。

第一に、日本とインドの安全保障協力。武器技術の供与と、海と空での軍事的な連携で、中国を牽制します。インドは国境問題などで中国と長年対立しています。インド政府によると、中国軍の国境侵犯はこの3年で600回に及び、インド洋でも中国の原子力潜水艦が堂々と航行しています。この政策により、もし軍事衝突を起こしたら日・印両国に挟み撃ちにされるのではという恐怖を中国に与え、過剰な軍事行動を抑止する。インドにとっても、日本の進んだ武器技術を得られるのは大きなメリットです。

第二に、日本、ASEAN、オーストラリアでの経済連携協定、EPAの締結。EPAは人材

や投資など幅広い分野での長期的な連携です。日本とその友好国であるオーストラリアの ASEAN への投資を促進させ、中国マネーに依存した ASEAN を解放します。日本にとっては、堅実に成長を続ける東南アジアへの投資は魅力的です。東南アジア諸国にとっては、彼らが今一番売りたい家電を多く買ってもらえるのがメリットです。また、オーストラリアは、資源が豊富な東南アジアから、石油や天然ガスなどをより安く輸入できる。各国にとってメリットのある協定です。日本とオーストラリアが ASEAN にたっぷりお金を落とせば、ASEAN は中国依存から脱却し、過剰な配慮をする必要がなくなります。

しかし、この2つだけでは、中国がアジアで孤立してしまいます。短期的には二つの政策で抑止できても、長期的には日本への不信感が残ります。そこで最後に、日中間で FTA を締結します。実は中国経済は輸出と海外からの投資に依存しています。ですが、近年経済成長が鈍化し、製品も思うように売れていません。一人当たりの GDP が中国より圧倒的に大きく購買力の高い日本との FTA は、中国経済を救うこととなります。万が一開戦したら取引が止まって大損失になるので、日本の安全確保にも繋がります。

インドと連携して中国の軍事進出を抑止する。オーストラリア、ASEAN との提携で ASEAN の中国依存を断ち切り、アメリカの牽制を有効にする。その上で、日中 FTA によって中国に手を差し伸べる。これらによって、最悪の衝突を避けることができます。

19 世紀、ドイツの宰相・ビスマルクは、敵をカッコよく倒すよりも、同盟外交という強くしなやかな糸を張り巡らせることで、20 年もの平和を実現させました。この演題、『21 世紀のビスマルク』。その手腕を、21 世紀に蘇らせるのみならず、孤立する敵国に手を差し伸べるという、彼でさえできなかったことを実現させるのです。

正義はカッコいいものだと、子どもの頃は思っていました。悪を倒すものだ、と。でもきっと違うんです。

正義は決してカッコいいとは限らない。どれだけカッコ悪くても、どれだけ力不足でも、どれだけつらく苦しくても、探し続けることです。何が正義なのか、どうすれば誰かを守れるのか、を。その先に、きっと見えてくるはずです。人々の願いがひよっとしたら現実になるかもしれないという思い——そう、希望が。

正義は、希望そのものです。希望こそ、残酷な現実の中で輝き続ける、人間が持てる最高の財産です。

探しましょう、希望を、正義を。そして守りましょう、大切な人々を。我々は正義をなすことができるのです——